

斗争委二子文

新編
大日本圖書文庫
No.1
6817.3
（廣富同發行）

* 情じの新しい展開、及び主体的の状況などを考慮して、又トライモ、本邦封鎖方針の変

学生大公長期不ト 力針可決、 金澤の學友諸君、どうわけ文學部

全體の學友諸君、どうぞけ文学部の嘗友諸君！

（昨年お忙程の多くの学友から選
ばれなびらも結局実現しえなか
つた。しかも獲得したといふ事実
のその内容を我々はハツキリと見
えてゐる）二つに、正午のオペラ

「今日のスケジュール
概要
争点と現在」

昨日の臨時学生大会は、本競争問題をめぐらしくなつた局面上における我々の斗^{アキラカ}いの興味ある前進の為に、自然した形で開^{ハシマツ}いた。競^{クニヒ}争を展開した。結集した五百数十人の学生は、丘倒的に設置を可決した。

究の歴史ならない。昭和の長い歴史をなした「非民主的決定反対」の次元から理解し、科学技術体系の独占資本への従属たる筑波研究所、国節、大村による批判に根柢

9:00～ 無洗起業
(G5)
10:00～ ハラス
3:00～ シンボジ

7:00~ 斗爭委

その君子は即ち、我々のバリケードの内実を不斷に強化しつつ、ヨイの全學会を追求し、その苟く文學部は明郎のストライキに突入するもので
あつた。24日學生大會決定による申請封鎖は、ヨイの新たな局面を開つく
拓いた。ひとつに、調查ヒ討上を始
めとする事ム件件を修正させたこと。
ふたつに、我々學生の力くらゐ
大學の封鎖とより大學の威信を失墜
させ、無故岳國文への途を拓いたこと
である。この本館封鎖こそ、我々
の勝利の緒であり、その先の方針づ
けのためであったのだ。しかし、學生
たまごいことは、驚いたことに、相

を書き、又駆逐移転に対する教授の不毛な審議一学部の個別刊憲法に依頼するも力乏しかなりせりしを批判しつつ、その帰着としてカツーチヤニバヌ記したに対する討決をも内包したした固い意志一致が、今、このパリカードスト・本館封鎖を支えていゝのだ。我々はこのような内対を不斷く強化してそこで又、ヨリの身を立てるうとしているのであるが、昨年11月の本學一助教、非民主的決定反対へと成る立場を以て行動してゐるではなし。

（今後のスケジュール）

- ・長期スト
- ・本部封鎖続行
- ・4日、8日、13日、
斗争委員会
- ・斗争委員会（連日）

文薄部自治会は、本館封鎖停止
通告され、本日から連続して
大学の学園斗争との交流、M-L
とは何報告批判等々）への他学
部の学友の自流を譲り之る。

熱行詔參の議事から、丁本館封鎖を解除せよ」という方針が提起されただ。これに対する多くのクラス

久留里は西へ西へ、も諦けぬ
ことせんじた。代宗の手の
西陽の水の源へ西洋へとして

米文学部古リニス江大正元
大正五年一月八日一人ニ
選出して下へし。

三友からの批判は、その「学問的」性へ批判を奪う、四年生の就職ができないらしいしといつて根柢上をうち破つたのである。事実、四年生の就職の多くは卒業証書を出でない限りやらねえといつて書しだし、かからぬといふ。

残しあげれはならぬ。現在、二
講師長は、学生運動対策の為の改
革をおいか元教育省からの調査に
よつて止めざるをえなくほへ、暫
くからゆる株式と弾圧を行ひの

★ストライキスローかニ
★調査ヒ討上阻止！
★対訴訟虫用交要矣、
★6.10決定白紙繰回ト
★マスターアラン委

我々はこの大学当局の攻撃に対する明確な反撃をどう打つのかといふ、前後からもえねはならないのだ。然後を打つことは、現時莫大の力にならぬまいのだ。

★箱根移転物語
即時解散！

さうしてこの学友譜書、
今大体、昨年の夏のスケリイキ斗
争も勝ち残り前進して、ハリ
ナードストリーチと、又本館武道

卷之三
第三章
第三節

馬大連語大典